

名前（ ） 日づけ（ / ） できた数（ /28）

使い方 まず本文を二、三度声に出して読み、傍線の番号を手がかりに解きます。この話の山は「二重敬語」と「反実仮想」、そして公任の“悔しさと誇り”です。

あらすじ＝道長が大井川で舟遊びを催し、三つの舟を用意して、それぞれの道の名手を乗せた。そこへ多才で知られる大納言・藤原公任が来る。道長が「あの大納言はどの舟に乗るのか」と言うと、公任は和歌の舟を選び、「小倉山…」の名歌を詠んで絶賛された。ところが公任は後日、和歌の舟を選んだことを悔やんだと語り、同時に道長の問いかけを誇らしくも感じたという。

一次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

① 一年、② 入道殿（にふだうどの）の、大井川（おほゐがは）に③ 逍遙（せうえう）せさせ給ひしに、④ 作文の舟・管絃（くわんげん）の舟・和歌の舟と分かつたせ給ひて、その道に⑤ たへたる人々を乗せさせ給ひしに、この大納言殿（だいなごんの）の⑥ 参り給へるを、入道殿、「かの大納言、⑦ いづれの舟にか乗らるべき。」とのたまはすれば、

「和歌の舟に⑧ 乗り侍（はべ）らむ。」とのたまひて、よみ給へるぞかし、

小倉山（をぐらやま）嵐（あらし）の風の寒ければ⑨ もみぢの錦（にしき）⑩ 着ぬ人ぞなき

申し受け給へるかひありて、あそばしたりな。

御自（おんみづか）らものたまふなるは、「⑪ 作文のにぞ乗るべかりける。さて、⑫ かばかりの詩を作りたらしましかば、名の上

がらむこともまさりなまし。⑬ 口惜（くちを）しかりけるわざかな。さても、殿の、『いづれにかと思ふ。』とのたまはせしに

なむ、⑭ われながら心おごりせられし。」とのたまふなる。

⑮ 一事（いちじ）のすぐるるだにあるに、かくいづれの道も抜け出で給ひけむは、いにしへも侍（はべ）らぬことなり。

語注 入道殿＝出家した貴人への敬称。大井川＝京都・嵐山のふもとを流れる川。大堰川とも書く。逍遙＝気ままに遊び歩く。ここは舟遊び。管絃＝楽器の演奏。音楽。この大納言殿＝「大納言」という官職で呼ばれている人物。のたまはす・のたまふ＝「言ふ」の尊敬語（のたまはす」のほうが重い）。小倉山・嵐（山）＝大井川をはさんで向かい合う山の名。錦＝色糸で模様を織り出した高級な織物。あそばす＝「す・詠む」の尊敬語。わざ＝こと。行い。さても＝それにしても。いにしへ＝昔。※この話は『大鏡』太政大臣頼忠の段にある。

A 語句の意味と読み (1～6)

- (1) ①「一年」の読みをひらがなで書き、あわせてここでの意味を書け。
- (2) ④「作文」の読みをひらがなで書き、あわせてその意味を書け。
- (3) ⑤「たへたる」の意味を書け。
- (4) ⑬「口惜し」の意味を書け。
- (5) ⑭「心おごり」の意味を書け。
- (6) ⑮「だに」の意味を書け。

B 文法 (7～12)

- (7) ③「せさせ給ひ」のうち「させ給ひ」の部分を文法的に説明せよ。
- (8) ⑦「乗らるべき」の「る」の文法的意味を書け。
- (9) ⑦の係助詞「か」を受けて、文末の「べし」はどう変化しているか。文法的に説明せよ。
- (10) ⑧「む」の文法的意味を書け。
- (11) ⑫「作りたらしましかば…まさりなまし」は何という構文か。名前と訳し方の型を書け。
- (12) ⑭「心おごりせられし」の「られ」の文法的意味を書け。

C 主語・指す内容・敬意の方向 (13～17)

(13) ② 「入道殿」とはだれのことか。人物名を書け。

(14) ③ 「させ給ひ」の敬意は、だれからだれへ向けられたものか書け。

(15) ⑥ 「参り給へる」の主語はだれか。人物名を書け。

(16) ⑥ 「参り給へる」の「参り」は、だれからだれへの敬意を表しているか書け。

(17) ⑧ 「侍ら」は、だれからだれへの敬意を表しているか書け。

D 口語訳 (18～21)

(18) ⑦ 「いづれの舟にか乗らるべき」を現代語訳せよ。

(19) ⑩ 「着ぬ人ぞなき」を現代語訳せよ。

(20) ⑪ 「作文のにぞ乗るべかりける」を現代語訳せよ。

(21) ⑫ 「かばかりの詩を作りたましかば、名の上がらむこともまざりなまし」を現代語訳せよ。

E 内容・記述 (22～25)

(22) ④とあるが、道長は三つの舟を用意した。三つすべて答え、この三つが当時の貴族にとってどのような位置づけのものであったかも書け。

(23) ⑨ 「もみぢの錦」はどのような表現技法か。何を何にたとえたのかを含めて四十字以内で書け。

(24) ⑪・⑬とあるが、公任が和歌で絶賛されたにもかかわらず悔やんだのはなぜか。当時の価値観をふまえて八十字以内で説明せよ。

(25) ⑭とあるが、公任は何を誇らしく思ったのか。本文に即して八十字以内で説明せよ。

F 文学史・作品常識 (26～28)

(26) この文章の出典の書名と、その作品のジャンルを書け。

(27) 『大鏡』は、どのような人物が、どのような形式で歴史を語る作品か書け。

(28) 「三舟（三船）の才」とはどのような意味の言葉か。またこの話の中心人物はだれか、人物名も書け。

【テスト直前チェック】この三つ ①二重敬語（最高敬語）なのは「させ給ひ」の部分。「逍遙せ」はサ変動詞「逍遙す」の未然形で、この「せ」は敬語ではありません。「させ」を使役と訳すと×で、敬意は入道殿＝藤原道長に向かいます。②「作りたらししかば…まさりなまし」は反実仮想。「もし～だったら…だろうに」と訳し、実際にはそうしなかった残念さまで出すのが満点の条件です。③公任が悔やんだ理由＝当時は和歌より漢詩（作文）が格上だったから。記述問題の答えは、ほぼこの一点に集まります。